

宮崎県南部から得られた九州沿岸初記録を含む南方系魚類 7 種

中村亮太¹・渡辺隆太¹・大井真人¹・本村浩之²

Author & Article Info

¹ 鹿児島大学水産学部 (鹿児島市)

RN: k9948835@kadai.jp

² 鹿児島大学総合研究博物館 (鹿児島市)

motomura@kaum.kagoshima-u.ac.jp (corresponding author)

Received 18 November 2024

Revised 22 November 2024

Accepted 22 November 2024

Published 23 November 2024

DOI 10.34583/ichthy.49.0_61

Ryota Nakamura, Ryuta Watanabe, Masato Oi and Hiroyuki Motomura. 2024. First records of seven southern fish species from Miyazaki Prefecture, Japan, including the first Kyushu records. Ichthy, Natural History of Fishes of Japan, 49: 61–67.

Abstract

The following seven southern species were newly recorded from Miyazaki Prefecture, Kyushu, Japan, on the basis of collected specimens: *Gymnothorax chilospilus* Bleeker, 1864, *Uropterygius* sp. sensu Hatooka (2000), *Sebastapistes cyanostigma* (Bleeker, 1856), *Belonepterygion fasciolatum* (Ogilby, 1889), *Apogonichthys ocellatus* (Weber, 1913), *Callogobius okinawae* (Snyder, 1908), and *Oxyurichthys lonchotus* (Jenkins, 1903). Three of them, *S. cyanostigma*, *A. ocellatus*, and *C. okinawae* also represent the first records of these species from Kyushu.

宮崎県南部沿岸の海洋気候区分は、暖温帯区から亜熱帯区への移行帯区であるとされ (村瀬, 2020), 水中写真によって宮崎県南部沿岸域の魚類相を調査した村瀬ほか (2023) は, 確認された魚類のうち 7 割が熱帯性魚類であることを報告した. このことから, 宮崎県南部沿岸域は黒潮の影響を強く受けた海域であると考えられる.

2023 年 10 月から 2024 年 7 月にかけて著者らが行った採集調査により, 熱帯・亜熱帯域を主な分布域とするミナミウツボ *Gymnothorax chilospilus* Bleeker, 1864, ホシキカイウツボ *Uropterygius* sp. sensu Hatooka (2000), カスリフサカサゴ *Sebastapistes cyanostigma* (Bleeker, 1856), トゲタナバタウオ *Belonepterygion fasciolatum* (Ogilby, 1889), マトシボリ *Apogonichthys ocellatus* (Weber, 1913), ナメラハゼ *Callogobius okinawae* (Snyder, 1908), およびミナミサルハゼ *Oxyurichthys lonchotus* (Jenkins, 1903) の 7 種が採集され

た. これらは標本に基づく九州沿岸, または宮崎県における初記録であるため, 宮崎県南部の魚類相に関する基礎的知見の蓄積を目的としてここに報告する.

材料と方法

標本の計測はノギスを用いて 0.1 mm 単位で行った. 標準体長 (standard length) は体長または SL, 全長 (total length) は全長または TL とそれぞれ表記した. カスリフサカサゴの棘の名称は中坊・甲斐 (2013) に, ナメラハゼの頭部感覚孔の名称は明仁親王・目黒 (1977) にそれぞれしたがった. 標本の作成, 登録, 撮影, および固定方法は本村 (2009) に準拠した. 科と種の掲載順は本村 (2024) にしたがった. 本研究に用いた標本は鹿児島大学総合研究博物館 (KAUM) に保管されており, 生鮮時の写真は同館のデータベースに登録されている. 本報告で用いた研究機関略号は KAUM (鹿児島大学総合研究博物館) と KPM (神奈川県立生命の星・地球博物館) である. KPM の資料番号は, 同館のデータベース上では 0 を含めた 7 桁の数字で表記されるが, 本報告では実質的な有効数字で表記した.

ウツボ科 Muraenidae

Gymnothorax chilospilus Bleeker, 1864

ミナミウツボ (Fig. 1A)

標本 KAUM-I. 191988, 全長 193.7 mm, 宮崎県串間市都井, 31°23'12"N, 131°17'45"E, 水深 0 m, 徒手, 2023 年 11 月 15 日, 大井真人.

同定 本標本は口裂が完全に閉じられること, 前上顎骨板中央部と下顎先端部に鋭い歯があること, 主上顎骨歯が鋭く, 前方で 2 列, 後方で 1 列をなし, その歯列が鋤骨の歯列より長いこと, 鋤骨歯が主上顎骨歯より小さいこと, 歯の切縁に鋸歯がないこと, 背鰭起部が鰓孔上より前方に位置すること, 体前半に不明瞭な横帯があること, 臀鰭に白色縁がないこと, 両顎の頭部側線管孔の周囲が白く縁取られること, 眼の後方に明瞭な白色帯がないこと, および背鰭と臀鰭に明瞭な帯がないことなどの特徴が波戸岡

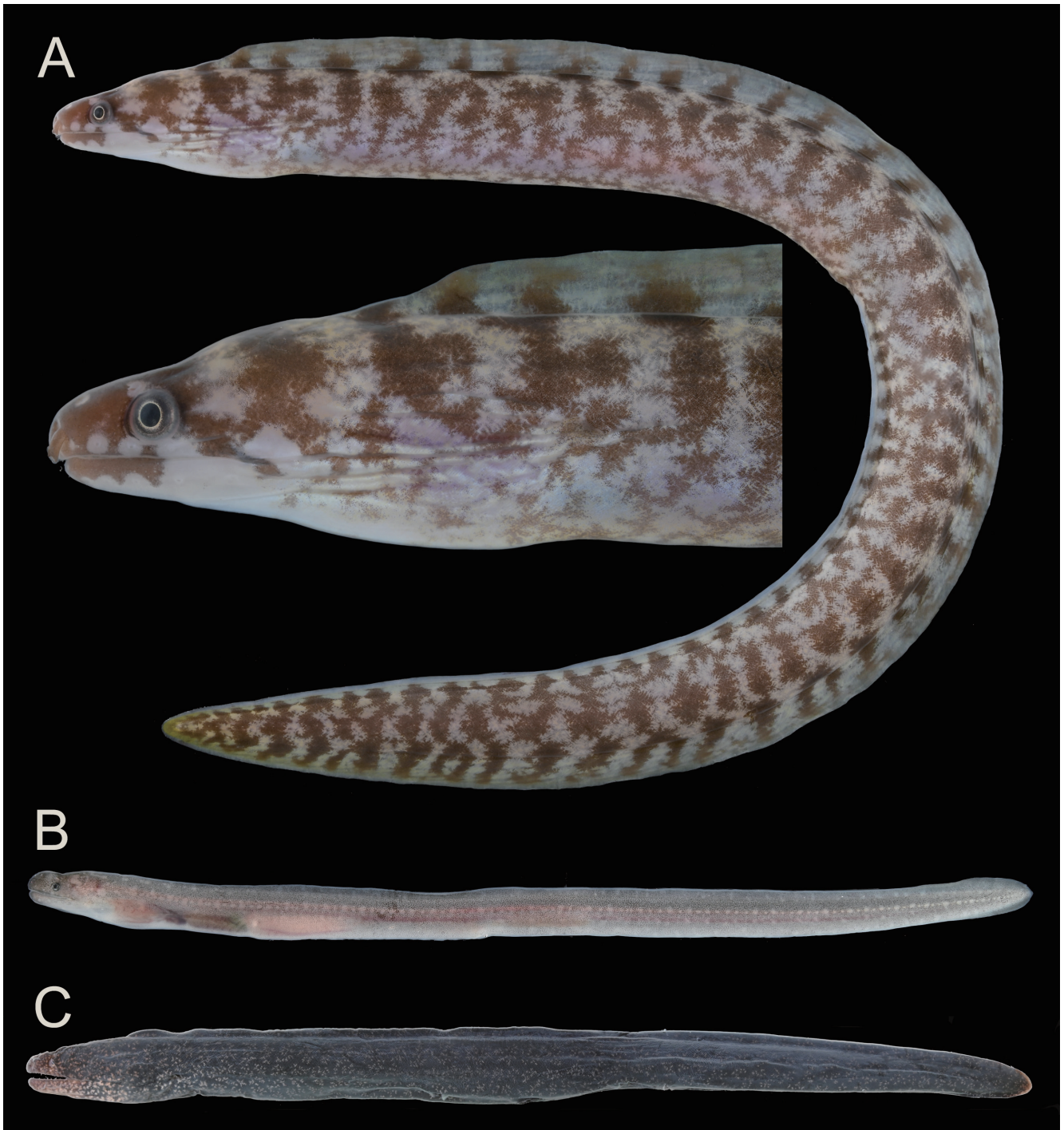


Fig. 1. Specimens of *Gymnothorax chilospilus* (A: KAUM-I. 191988, 193.7 mm TL) and *Uropterygius* sp. (B: KAUM-I. 192335, 63.4 mm TL; C: KAUM-I. 193962, 281.3 mm TL) collected from Miyazaki Prefecture, Japan.

(2013) の示したミナミウツボの特徴と一致したため、本種に同定された。

分布 ミナミウツボはインド・太平洋に分布する(波戸岡, 2013)。国内では伊豆諸島(八丈島), 小笠原諸島, 南鳥島, 相模湾, 高知県柏島, 鹿児島県薩摩半島, 大隅諸島(硫黄島・種子島・屋久島・口永良部島), 奄美群島(奄美大島・加計呂麻島・沖永良部島・与論島), 沖縄諸島(沖縄島・伊江島), 慶良間諸島(渡嘉敷島)から記録されている(Bryan and Herre, 1903; 吉郷・中村, 2003; Senou et al., 2006; 吉郷・中村, 2008; 渡井ほか, 2009; 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所, 2010; 波戸岡,

2013; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; 日比野, 2018; Motomura and Uehara, 2020; Jeong and Motomura, 2021; Motomura, 2023)。本研究により、宮崎県から新たに記録された。

採集時の状況 本標本は宮崎県串間市の岩礁性海岸において、大潮の干潮に伴い干出した岩礁間に堆積した粒径0.5–2 cmの砂礫を30 cmほど掘ることで採集された。

備考 ミナミウツボの日本国内における記録は分布の項に示した通りであり、宮崎県南部産の標本は本種の宮崎県初記録である。

Uropterygius* sp. sensu Hatooka (2000)*ホシキカイウツボ** (Fig. 1B, C)

標本 KAUM-I. 192335, 全長 63.4 mm, 宮崎県串間市都井, 31°23'12"N, 131°17'45"E, 水深 0 m, 手網, 2023 年 10 月 31 日, 中村亮太; KAUM-I. 193962, 全長 281.3 mm, 宮崎県串間市都井, 31°23'12"N, 131°17'45"E, 水深 0.1 m, 手網, 2023 年 12 月 27 日, 渡辺隆太.

同定 本標本は吻が膨らむこと, 後鼻孔が眼の直上に開口し, その周辺には頭部側線管孔がないこと, 眼が口裂中央付近に位置すること, 下顎感覚管孔数が 6 であること, 鰓孔が体側中央よりやや下側にあること, 両額歯が 2 列であること, 鋤骨歯が主上顎骨の内側の歯より小さく, その歯列数が 1 で前上顎骨板と連続しないこと, 前上顎骨板中央の最後部の歯が顕著に長いこと, 背鰭と臀鰭がいずれも尾端付近にのみあること, 肛門が体の中央付近に位置すること, および黒褐色の体色に淡青色から褐色の雪片模様をもつこと (全長 63.4 mm と小型である KAUM-I. 192335 は体色が一様に灰色) などの特徴が波戸岡 (2013) と是枝ほか (2020) の示したホシキカイウツボの特徴と一致したため, 本種に同定された.

分布 ホシキカイウツボは南日本から台湾にかけて分布し (波戸岡, 2013), 国内では伊豆諸島, 小笠原諸島, 南硫黄島, 静岡県富戸, 和歌山県, 高知県室戸岬, 鹿児島県, 大隅諸島 (屋久島・口永良部島・竹島), 奄美群島 (奄美大島・加計呂麻島), 沖縄諸島 (沖縄島), 八重山諸島 (石垣島) から記録されている (京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所, 2011; 波戸岡, 2013; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; 古橋ほか, 2020; 是枝ほか, 2020; 望月ほか, 2022; 揖, 2022; 是枝・本村, 2023). 本研究により, 宮崎県から新たに記録された.

採集時の状況 KAUM-I. 192335 は宮崎県串間市の岩礁性海岸において, 大潮の干潮に伴い干出した, 岩礁間の幅約 3 m の範囲に堆積した粒径約 0.5–2 cm の砂礫をスコップで 5 cm ほど掘ることで採集された. KAUM-I. 193962 は宮崎県串間市の岩礁性海岸において, 水深 0.1 m ほどにある直径 5–60 cm ほどの転石の下から採集された.

備考 ホシキカイウツボの記録は分布の項で示した通りであり, 宮崎県南部産の標本は本種の宮崎県における初記録である.

Sebastapistes cyanostigma* (Bleeker, 1856)*カスリフサカサゴ** (Fig. 2A)

標本 KAUM-I.191985, 体長 28.3 mm, 宮崎県串間市都井, 31°23'12"N, 131°17'45"E, 水深 0.2 m, 手網, 2023

年 11 月 15 日, 渡辺隆太.

同定 本標本は額棘がないこと, 眼下骨系の棘が 1 本であること, 涙骨下縁に 4 本の棘をもつこと, 口蓋骨に歯があること, 胸鰭上半部の軟条が分枝すること, 胸鰭基底付近は皮膚と櫛鱗に被われること, および鱗膜に褐色斑をもたないことなどの特徴が中坊・甲斐 (2013) や本村 (2014) の示したカスリフサカサゴの特徴と一致したため, 本種に同定された.

分布 カスリフサカサゴはインド・西太平洋の熱帯・亜熱帯域に分布する (本村, 2014). 国内では伊豆諸島 (八丈島), 小笠原諸島, 静岡県, 高知県柏島, 大隅諸島 (屋久島・口永良部島), 奄美群島 (奄美大島・喜界島・沖永良部島・与論島), 沖縄諸島 (伊江島), 大東諸島 (南大東島), 慶良間諸島 (渡嘉敷島), 宮古諸島 (伊良部島), 八重山諸島 (与那国島) から記録されている (吉郷, 2004; Senou et al., 2006, 2007; 中坊・甲斐, 2013; 本村, 2014; Koeda et al., 2016b; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; 田中ほか, 2020; 本田ほか, 2024). 本研究により, 宮崎県から新たに記録された.

採集時の状況 本標本は宮崎県串間市の岩礁性海岸において, タイドプールの水深 1 m ほどに着生したミドリイシ類の基部に着底していたところを手網により採集された.

備考 カスリフサカサゴの記録は分布の項で示した通りである. 宮崎県南部産の標本は本種の宮崎県における初記録であるとともに九州沿岸初記録である.

タナバタウオ科 Plesiopidae***Belonepterygion fasciolatum* (Ogilby, 1889)****トゲタナバタウオ** (Fig. 2B)

標本 KAUM-I.192811, 体長 39.4 mm, KAUM-I.192812, 体長 25.8 mm, 宮崎県串間市都井, 31°23'12"N, 131°17'45"E, 水深 0.1 m, 徒手, 2023 年 12 月 17 日, 水野有朝.

同定 本標本は背鰭棘数が 18 であること, 臀鰭棘数が 10 であること (KAUM-I.192811 では 11), 側線が 3 本で, 中央のものは尾柄部まで達すること, 背鰭と臀鰭の外縁が白くふちどられること, 前鰓蓋骨に棘がないこと, および体側に 9–11 本の暗色横帯があることなどの特徴が Smith-Vaniz and Johnson (1990) と林 (2013a) の示したトゲタナバタウオの特徴と一致したため, 本種に同定された. 林 (2013a) はトゲタナバタウオの臀鰭棘数を 10 としたが, KAUM-I.192811 の臀鰭棘数は 11 であった. しかし, その他の形質は上記の特徴と一致したため, 本研究ではこの相違をトゲタナバタウオの種内変異と判断した.

分布 トゲタナバタウオは東インド洋と西太平洋に分

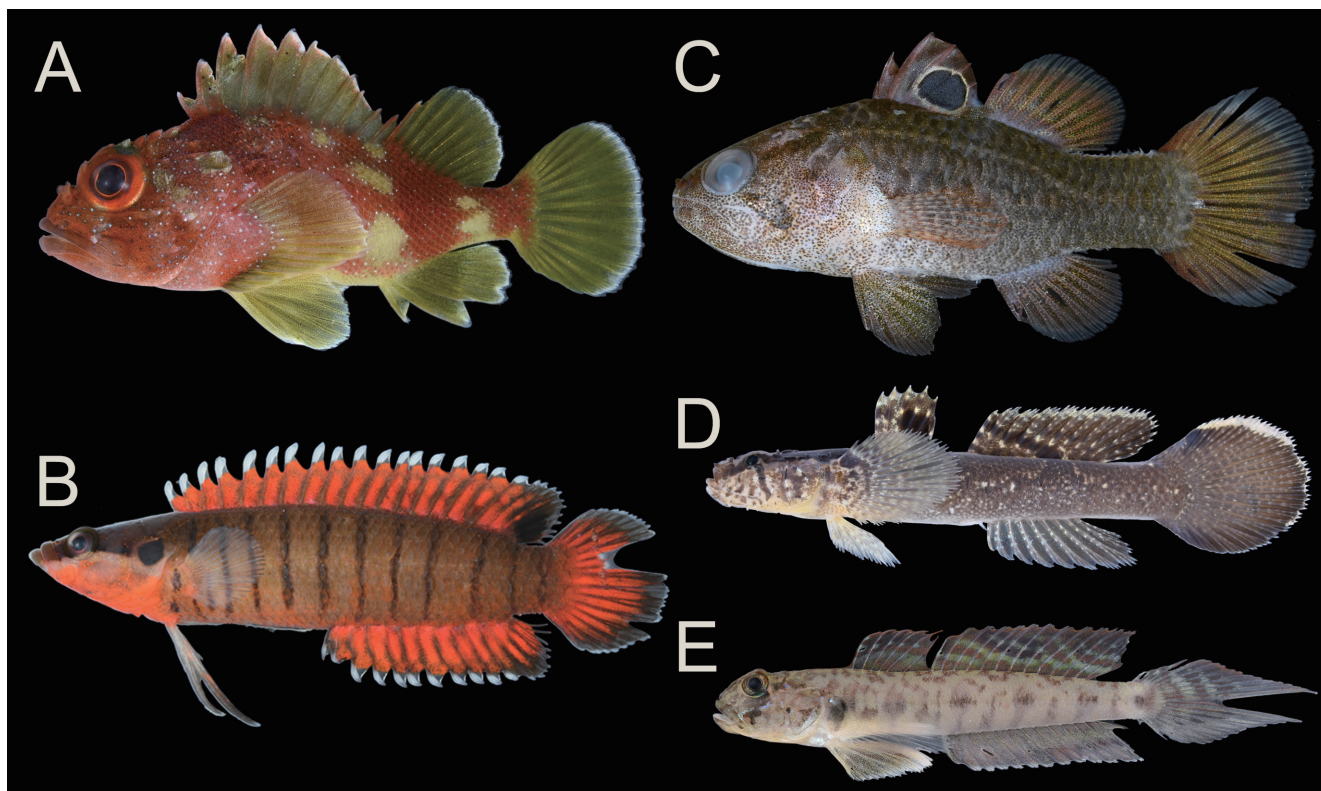


Fig. 2. Specimens of *Sebastapistes cyanostigma* (A: KAUM-I. 191985, 28.3 mm SL), *Belonepterygion fasciolatum* (B: KAUM-I. 192811, 39.4 mm SL), *Apogonichthys ocellatus* (C: KAUM-I. 191984, 31.3 mm SL), *Callogobius okinawae* (D: KAUM-I. 182999, 38.3 mm SL), and *Oxyurichthys lonchotus* (E: KAUM-I. 197894, 25.8 mm SL) collected from Miyazaki Prefecture, Japan.

布する (林, 2013a). 国内では伊豆諸島 (伊豆大島・八丈島), 相模湾, 和歌山県, 高知県柏島, 愛媛県, 鹿児島県薩摩半島, 宇治群島, 大隅諸島 (種子島・馬毛島・屋久島・口永良部島), 奄美群島 (奄美大島・加計呂麻島・与路島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島), 沖縄諸島 (沖縄島, 伊江島), 慶良間諸島 (渡嘉敷島), 宮古諸島 (宮古島) から記録されている (林, 1995; 吉郷ほか, 2001, 2005; Senou et al., 2006; 渡井ほか, 2009; 林, 2013a; 吉田, 2014a; Motomura et al., 2015; Koeda et al., 2016a; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Nakae et al., 2018; 藤原・本村, 2019; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; 和田ほか, 2021; 萩原, 2022; Motomura, 2023; 大西, 2024; 本田ほか, 2024). 本研究により, 宮崎県から新たに記録された.

採集時の状況 本標本は宮崎県串間市の岩礁性海岸において, 夜間に水深 0.1 m ほどの水中にある転石下から採集された.

備考 トゲタナバタウオの記録は分布の項で示した通りであり, 宮崎県南部産の標本は本種の宮崎県における初記録である.

テンジクダイ科 Apogonidae

Apogonichthys ocellatus (Weber, 1913)

マトシボリ (Fig. 2C)

標本 KAUM-I. 191793, 体長 27.4 mm, KAUM-I. 191794, 体長 20.7 mm, 宮崎県串間市都井, 31°23'12"N, 131°17'45"E, 水深 0.2 m, 手網, 2023 年 11 月 3 日, 渡辺隆太; KAUM-I. 191983, 体長 32.7 mm, KAUM-I. 191984, 体長 31.3 mm, 宮崎県串間市都井, 31°23'12"N, 131°17'45"E, 水深 0.2 m, 手網, 2023 年 11 月 15 日, 中村亮太.

同定 本標本は孔器列を有さないこと, 両顎に大きな犬歯状歯がないこと, 前鰓蓋骨縁が平滑であること, 第 1 背鰭に 1 黒色斑があること, 第 1 背鰭棘数が 7 であること, 臀鰭軟条数が 8 であること, および側線鱗が他の体側鱗と同大であることなどの特徴が林 (2013b) の示したマトシボリの特徴と一致したため, 本種に同定された.

分布 マトシボリはインド・西太平洋に広く分布する (吉田, 2014b). 国内では伊豆諸島 (八丈島), 静岡県, 大隅諸島 (黒島), 奄美群島 (奄美大島・徳之島・沖永良部島), 沖縄諸島 (沖縄島), 慶良間諸島 (渡嘉敷島), 八重山諸島 (与那国島) から記録されている (渡井ほか, 2009; 林, 2013b; Koeda et al., 2016b; Mochida and Motomura, 2018; Nakae et al., 2018; Motomura and Uehara, 2020; 吉郷, 2021; 出羽ほか, 2022; 本田ほか, 2024). 本研究により, 宮崎県から新たに記録された.

採集時の状況 本標本は宮崎県串間市の岩礁性海岸において, 夜間に水深 0.2 m ほどの水中にある転石下から採集された.

備考 マトシボリの記録は分布の項で示した通りであり、宮崎県南部産の標本は本種の宮崎県における初記録であるとともに九州沿岸初記録である。

ハゼ科 Gobiidae

Callogobius okinawae (Snyder, 1908)

ナメラハゼ (Fig. 2D)

標本 KAUM-I. 182999, 体長 38.3 mm, 宮崎県串間市都井, 31°23'12"N, 131°17'45"E, 水深 0.2 m, 手網, 2023 年 10 月 31 日, 渡辺隆太; KAUM-I. 192212, 体長 19.27 mm, KAUM-I. 192213, 体長 17.5 mm, 宮崎県串間市都井, 31°23'12"N, 131°17'45"E, 水深 0.2 m, 手網, 2023 年 10 月 31 日, 渡辺隆太。

同定 本標本は孔器列 14 と 15 がそれぞれ連続しないこと (ただし KAUM-I. 182999 では左側の孔器列 14 が連続), 孔器列 16 が皮摺上に開孔する短横列孔器からなること, 後眼肩胛管がないこと, 主鰓蓋骨に鱗がないこと, 前鰓蓋管があること, 胸鰭後端が臀鰭起部に達しないこと, および第 1 背鰭と第 2 背鰭が大きく離れることなどの特徴が明仁・目黒 (1975), 明仁・目黒, (1977), および明仁ほか (2013) の示したナメラハゼの特徴と一致したため, 本種に同定された。KAUM-I. 182999 は左側の孔器列 14 が連続していたが, その他の形質は上記の特徴と一致したため本種の種内変異であると判断した。

分布 ナメラハゼは中央・西太平洋に分布する (鈴木, 2021a)。国内では和歌山県, 大隅諸島 (竹島・種子島・屋久島・口永良部島), 奄美群島 (奄美大島・加計呂麻島・喜界島・徳之島・沖永良部島・与論島), 沖縄諸島 (沖縄島・伊江島), 慶良間諸島 (渡嘉敷島), 宮古諸島 (宮古島・下地島), 八重山諸島 (石垣島・西表島・小浜島) から記録されている (明仁・目黒, 1975; 林・伊藤, 1978; 吉郷ほか, 2005; Senou et al., 2006, 2007; 前田・立原, 2006; 明仁ほか, 2013; 吉郷, 2014; Motomura and Harazaki, 2017; 木村ほか, 2017; Mochida and Motomura, 2018; Nakae et al., 2018; Motomura and Uehara, 2020; Fujiwara and Motomura, 2020; 平嶋, 2021; 望月ほか, 2022; Motomura, 2023)。本研究により, 宮崎県から新たに記録された。

採集時の状況 本標本は宮崎県串間市の岩礁性海岸において, 夜間に水深 0.2 m ほどの水中にある転石下から採集された。

備考 ナメラハゼの記録は分布の項で示した通りであり, 宮崎県南部産の標本は本種の宮崎県における初記録であるとともに九州沿岸初記録である。

Oxyurichthys lonchotus (Jenkins, 1903)

ミナミサルハゼ (Fig. 2E)

標本 KAUM-I. 197894, 体長 25.8 mm, 宮崎県串間市, 水深 0.7 m, 手網, 2024 年 5 月 10 日, 大井真人; KAUM-I. 199861, 体長 58.6 mm, 宮崎県串間市, 水深 0.7 m, 手網, 2024 年 7 月 7 日, 中村亮太。

同定 本標本は眼上皮弁がないこと, 体側後半が櫛鱗に被われること, 体側背部の被鱗域前端が項部側面に達しないこと, および尾鰭の黒色斑が不明瞭であることなどの特徴が渋川ほか (2017) の示したミナミサルハゼの特徴と一致したため, 本種に同定された。

分布 ミナミサルハゼは西インド洋と太平洋に分布する (Pezold and Larson, 2015)。国内では小笠原諸島 (父島・母島), 千葉県, 神奈川県, 静岡県, 三重県, 和歌山県, 徳島県, 高知県, 鹿児島県本土, 大隅諸島 (種子島・屋久島・口永良部島), 奄美群島 (奄美大島・徳之島・沖永良部島), 沖縄諸島 (沖縄島・久米島), 宮古諸島 (宮古島・伊良部島), 八重山諸島 (石垣島・西表島・与那国島) から記録されている (吉郷, 2007; 明仁ほか, 2013; 吉郷, 2014; 国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所, 2017; 山川ほか, 2017, 2018; 古橋ほか, 2019; 赤池ほか, 2021; 岡村ほか, 2023)。本研究により, 宮崎県から新たに記録された。

採集時の状況 本標本は河川河口の軟泥中から得られた。同所は立ち入ると体が腿下付近まで沈み込むような粘土質の軟泥が, 礫混じりの砂の上に約 10–60 cm 堆積していた。

備考 ミナミサルハゼの記録は分布の項で示した通りである。村瀬ほか (2019, 2021) でミナミサルハゼとされた個体 (KPM-NI. 50697) は, 背鰭に顕著な暗色点列模様があること, 第 1 背鰭基部後方に黒色斑があることなどが渋川ほか (2017) と鈴木 (2021b) の示したカマヒレマツゲハゼ *Oxyurichthys cornutus* McCulloch and Waite, 1918 の特徴と一致したため, ミナミサルハゼではなくカマヒレマツゲハゼであると考えられる。したがって, 宮崎県南部産の標本は本種の宮崎県初記録である。

謝 辞

本報告を取りまとめるにあたり, 鹿児島大学大学院連合農学研究科の是枝伶旺氏には投稿前の原稿に対して適切な助言をいただいた。鹿児島大学総合研究博物館魚類分類学研究室の学生とボランティアの皆様には標本の作製および登録作業をしていただいた。鹿児島大学アクアリウムサークル「クロミス」の皆様には採集調査にご協力いただいた。Ichthy 編集委員の吉田朋弘氏と匿名の査読者には原稿に対して適切な助言をいただいた。以上の方々に深く感謝申し上げます。本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島・琉球列島の魚類多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部は公益財団法人日本海事科学振興財団「海の学びミュージアムサポート」, JSPS 科研

費 (20H03311・21H03651・23K20304・24K02087), JSPS 研究拠点形成事業—B アジア・アフリカ学術基盤形成型 (CREPSUM JPJSCCB20200009), 文部科学省機能強化費「世界自然遺産候補地・奄美群島におけるグローバル教育研究拠点形成」, および鹿児島大学のミッション実現戦略分事業 (奄美群島を中心とした「生物と文化の多様性保全」と「地方創生」の革新的融合モデル) の援助を受けた。

引用文献

- 赤池貴大・藤原恭司・上原航知・松岡 翠・藤井琢磨・ジョン ビョル・松本達也・中川龍一・緒方僚輝・是枝伶旺・古橋龍星・望月健郎・飯野友香・出羽優風・石原祥太郎・本村浩之. 2021. 標本に基づく琉球列島初記録を含む沖永良部島初記録の魚類 66 種, およびサザンプラティフィッシュの島内における新産地とカワアナゴ属の一種の形態学的特徴. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 13: 18–35. [URL](#)
- 明仁・坂本勝一・池田裕二・藍澤正宏. 2013. ハゼ亜目, pp. 1347–1608, 2109–2211. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 明仁親王・目黒勝介. 1975. ナメラハゼについて. *魚類学雑誌*, 22: 112–116. [URL](#)
- 明仁親王・目黒勝介. 1977. 日本で採集されたオキナワハゼ属 5 種及びその類縁関係. *魚類学雑誌*, 24: 113–127. [URL](#)
- Bryan, W. A. and A. W. C. T. Herre. 1903. Annotated list of Marcus Island fishes. *Occasional Papers of the Bernice Pauahi Bishop Museum of Polynesian Ethnology and Natural History*, 2: 126–139. [URL](#)
- 出羽優風・望月健太郎・松岡 翠・中村潤平・石原祥太郎・橋本慎太郎・佐藤智水・島中柚菜・本村浩之. 2022. 大隅諸島黒島から得られた初記録の魚類 86 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 27: 15–31. [URL](#)
- 藤原恭司・本村浩之. 2019. 鹿児島県南さつま市における 2018–2019 年の魚類相調査で得られた九州沿岸初記録の魚類 9 種. *Nature of Kagoshima*, 45: 397–403. [URL](#)
- Fujiwara, K. and H. Motomura. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Kikai Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 259 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 14: 1–73. [URL](#)
- 古橋龍星・是枝伶旺・赤池貴大・本村浩之. 2019. 鹿児島県薩摩半島南岸から得られたミナミサルハゼとカマヒレマツゲハゼの記録 (ハゼ科: サルハゼ属) および両種の生息環境に関する新発見. *Nature of Kagoshima*, 46: 81–87. [URL](#)
- 古橋龍星・是枝伶旺・本村浩之. 2020. 鹿児島県薩摩半島南岸から得られた魚類 4 種の記録. *Nature of Kagoshima*, 46: 535–539. [URL](#)
- 萩原清司. 2022. 横須賀市自然・人文博物館所蔵魚類資料目録 (V) 横須賀市自然・人文博物館および相模湾海洋生物研究会収集奄美群島産魚類目録. *横須賀市博物館資料集*, 46: 1–127.
- 波戸岡清峰. 2013. ウツボ科, pp. 244–261, 1786–1792. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義. 1995. 横須賀市自然博物館所蔵魚類資料目録 (III) — 青柳兵司博士収集魚類目録 —. *横須賀市博物館資料集*, 20: 1–70.
- 林 公義. 2013a. タナバタウオ科. pp. 811–814, 1975. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義. 2013b. テンジクダイ科. pp. 826–864, 1979–1986. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第 3 版. 東海大学出版会, 秦野.
- 林 公義・伊藤 孝. 1978. 南西諸島のハゼ科魚類について (I). *横須賀市博物館研究報告 (自然科学)* 24: 59–82, pls. 1–11. [URL](#)
- 日比野友亮. 2018. ミナミウツボ, p. 21. 本村浩之・萩原清司・瀬能 宏・中江雅典 (編) 奄美群島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・横須賀市自然・人文博物館, 横須賀・神奈川県立生命の星・地球博物館, 小田原・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 平嶋健太郎. 2021. 和歌山県沿岸からの希少ハゼ 2 種とスズビチスズメダイの記録. *和歌山県立自然博物館館報*, 39: 89–91.
- 本田康介・瀬能 宏・和田英敏. 2024. 相模湾産魚類目録 (改訂). *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 53: 127–218. [URL](#)
- Jeong, B. and H. Motomura. 2021. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of five islands of Mishima in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 109 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 16: 1–116. [URL](#)
- 揖 善継. 2022. ホシキカイウツボ, p. 167. 和歌山県環境生活部環境政策局 (編) 保全上重要なわかやまの自然 —和歌山県レッドデータブック— [2022 年改訂版]. 和歌山県環境生活部環境政策局, 和歌山. [URL](#)
- 木村祐貴・日比野友亮・三木涼平・峯 健・小枝圭太 (編). 2017. 緑の火山島 口永良部島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 200 pp. [URL](#)
- Koeda, K., T. Fujii, S. Koeda and H. Motomura. 2016a. Fishes of Yoro-jima and Uke-jima islands in the Amami Islands: 89 new specimen-based records. *Memories of Faculty of Fisheries, Kagoshima University*, 65: 1–20. [URL](#)
- Koeda, K., Y. Hibino, T. Yoshida, Y. Kimura, R. Miki, T. Kunishima, D. Sasaki, T. Furukawa, M. Sakurai, K. Eguchi, H. Suzuki, T. Inaba, T. Uejo, S. Tanaka, M. Fujisawa, H. Wada and T. Uchiyama. 2016b. Annotated checklist of fishes of Yonaguni-jima island, the westernmost island in Japan. *Kagoshima University Museum, Kagoshima*. v + 120 pp. [URL](#)
- 国土交通省四国地方整備局那賀川河川事務所. 2017. 第 5 回那賀川左岸堤防地震・津波対策事業環境回復モニタリング委員会資料. [URL](#)
- 是枝伶旺・古橋龍星・赤池貴大・本村浩之. 2020. 奄美群島から得られた琉球列島初記録および北限記録のコビキカイウツボ, および本種の標徴に関する再評価と生態学的新発見. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 2: 13–19. [URL](#)
- 是枝伶旺・本村浩之. 2023. 沖縄県初記録のコビキカイウツボとホシキカイウツボ, および潮間帯の礫中から得られるウツボ科魚類の記録. *Fauna Ryukyuna*, 66: 15–27. [URL](#)
- 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所. 2010. <記事>5. 水族館記録 2009 年. *瀬戸臨海実験所年報*, 23: 10–20. [URL](#)
- 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所. 2011. <記事>5. 水族館記録 2010 年. *瀬戸臨海実験所年報*, 24: 10–19. [URL](#)
- 前田 健・立原一憲. 2006. 沖縄島汀間川の魚類相. *沖縄生物学会誌*, 44: 7–25.
- Mochida, I., and H. Motomura. 2018. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tokunoshima island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 214 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 10: 1–80. [URL](#)
- 望月健太郎・是枝伶旺・佐藤智水・本村浩之. 2022. 大隅諸島竹島から得られた北限更新記録を含む同島初記録の魚類 43 種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 23: 19–31. [URL](#)
- 本村浩之. 2009. 魚類標本の作製と管理マニュアル. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島. 70 pp. [URL](#)
- 本村浩之. 2014. カスリフサカサゴ, pp. 131–132. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- Motomura, H. 2023. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Tanega-shima and Mage-shima islands in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 536 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 20: 1–250. [URL](#)
- 本村浩之. 2024. 日本産魚類全種目録. これまでに記録された日本産魚類全種の現在の標準和名と学名. Online ver. 27. [URL](#)
- Motomura, H., A. Habano, Y. Arita, M. Matsuoka, K. Furuta, K. Koeda, T. Yoshida, Y. Hibino, B. Jeong, S. Tashiro, H. Hata, Y. Fukui, K. Eguchi, T. Inaba, T. Uejo, A. Yoshiura, Y. Ando, Y. Haraguchi, H. Senou and K. Kuriwa. 2015. The ichthyofauna of the Uji Islands, East China Sea: 148 new records of fishes with notes on biogeographical implications. *Memories of the Faculty of Fisheries, Kagoshima University*, 64: 10–34. [URL](#)
- Motomura, H. and S. Harazaki. 2017. Annotated checklist of marine and freshwater fishes of Yaku-shima island in the Osumi Islands, Kagoshima, southern Japan, with 129 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 9: 1–183. [URL](#)

- Motomura, H. and K. Uehara. 2020. An annotated checklist of marine and freshwater fishes of Okinoerabu Island in the Amami Islands, Kagoshima, southern Japan, with 361 new records. *Bulletin of the Kagoshima University Museum*, 12: 1–125. [URL](#)
- 村瀬敦宣. 2020. 魚類の多様性に基づく宮崎県沿岸の生態学的評価. *水環境学会誌*, 43: 232–235.
- 村瀬敦宣・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏 (編). 2019. 宮崎県のさかなのまち 門川の魚図鑑. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 207 pp.
- 村瀬敦宣・緒方悠輝也・山崎裕太・三木涼平・和田正昭・瀬能 宏 (編). 2021. 新・門川の魚図鑑: ひむかの海の魚たち. 宮崎大学農学部附属フィールド科学教育研究センター延岡フィールド, 延岡. 358 pp.
- 村瀬敦宣・渋谷風雅・長友伸二郎・緒方悠輝也・大衛亮正・本村浩之・瀬能 宏. 2023. 水中写真に基づく宮崎県南部沿岸域の魚類相とその生物地理学的組成. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 33: 33–114. [URL](#)
- 中坊徹次・甲斐嘉晃. 2013. フサカサゴ科, pp. 683–705, 1939–1946. 中坊徹次 (編) 日本産魚類検索 全種の同定. 第3版. 東海大学出版会, 秦野.
- Nakae, M., H. Motomura, K. Hagiwara, H. Senou, K. Koeda, T. Yoshida, S. Tashiro, B. Jeong, H. Hata, Y. Fukui, K. Fujiwara, T. Yamakawa, M. Aizawa, G. Shinohara and K. Matsuura. 2018. An annotated checklist of fishes of Amami-oshima Island, the Ryukyu Islands, Japan. *Memoirs of the National Museum of Nature and Science, Tokyo*, 52: 205–361. [URL](#)
- 岡村恭平・山上竜生・井上裕太・野村彩恵・遠藤広光. 2023. 高知県から得られたハゼ科7種の記録. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 35: 20–27. [URL](#)
- 大西 遼. 2024. 串本海中公園センターで記録された魚類. *マリンパピリオン*, 15: 1–24. [URL](#)
- Pezold, F. and H. K. Larson. 2015. A revision of the fish genus *Oxyurichthys* (Gobioidae: Gobiidae) with descriptions of four new species. *Zootaxa*, 3988: 1–95. [URL](#)
- 瀬能 宏. 2014. ナメラハゼ, p. 501. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- Senou, H., Y. Kobayashi and N. Kobayashi. 2007. Coastal fishes of the Miyako Group, the Ryukyu Islands, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 36: 47–74. [URL](#)
- Senou, H., H. Kodato, T. Nomura and K. Yunokawa. 2006. Coastal fishes of Ie-jima island, the Ryukyu Islands, Okinawa, Japan. *Bulletin of the Kanagawa Prefectural Museum (Natural Science)*, 35: 67–92. [URL](#)
- 渋谷浩一・武藤文人・鈴木寿之・藍澤正宏. 2017. 浜名湖から得られたハゼ科サルハゼ属の1未記載種と日本産同属魚類の分類の現状. *東海自然誌*, 10: 43–55. [URL](#)
- Smith-Vaniz, W. F. and G. D. Johnson. 1990. Two new species of Acanthoclininae (Pisces: Plesiopidae) with a synopsis and phylogeny of the subfamily. *Proceedings of the Academy of Natural Sciences of Philadelphia*, 142: 211–260. [URL](#)
- 鈴木寿之. 2021a. ナメラハゼ, p. 72. 瀬能 宏・鈴木寿之・渋谷浩一・矢野惟幾 (編) 新版 日本のハゼ. 新訂・増補版. 平凡社, 東京.
- 鈴木寿之. 2021b. カマヒレマツゲハゼ, p. 191. 瀬能 宏・鈴木寿之・渋谷浩一・矢野惟幾 (編) 新版 日本のハゼ. 新訂・増補版. 平凡社, 東京.
- 田中翔大・下光利明・瀬能 宏・宮崎祐介. 2020. 慶良間諸島渡嘉敷島渡嘉志久湾の魚類相: 144種の追加記録. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 49: 107–118. [URL](#)
- 和田英敏・古橋龍星・山田守彦・藤井琢磨・吉田朋弘・Kunto Wibowo・荒木萌里・伊藤大介・赤池貴大・中川龍一・渋谷駿太・是枝伶旺・出羽優風・餅田 樹・本村浩之. 2021. 徳之島初記録の魚類 122種. *Ichthy, Natural History of Fishes of Japan*, 7: 35–52. [URL](#)
- 渡井幹雄・宮崎佑介・村瀬敦宣・瀬能 宏. 2009. 慶良間諸島渡嘉敷島久湾の魚類相. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 38: 119–132. [URL](#)
- 山川宇宙・坪 健人・酒井 卓・三井翔太・瀬能 宏. 2017. 相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類 5種. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 38: 77–82. [URL](#)
- 山川宇宙・三井翔太・丸山智朗・加藤藤也・酒井 卓・瀬能 宏. 2018. 相模湾とその周辺地域の河川および沿岸域で記録された注目すべき魚類 18種 — 近年における暖水性魚類の北上傾向について —. *神奈川県立博物館研究報告 (自然科学)*, 47: 35–57. [URL](#)
- 吉田朋弘. 2014a. トゲタナバタウオ, p. 179. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 吉田朋弘. 2014b. マトシボリ, p. 200. 本村浩之・松浦啓一 (編) 奄美群島最南端の島 — 与論島の魚類. 鹿児島大学総合研究博物館, 鹿児島・国立科学博物館, つくば. [URL](#)
- 吉郷英範. 2004. 南大東島で採集されたタイドプールと浅い潮下帯の魚類. *比和科学博物館研究報告*, 43: 1–51, 10 pls.
- 吉郷英範. 2007. 琉球列島久米島の陸水性魚類. *比和科学博物館研究報告*, 48: 25–51, pls. 1–4.
- 吉郷英範. 2014. 琉球列島産陸水性魚類相および文献目録. *Fauna Ryukyuana*, 9: 1–153. [URL](#)
- 吉郷英範. 2021. 庄原市立比和自然科学博物館収蔵のテンジクダイ科魚類. *比和科学博物館研究報告*, 63: 1–41, pls. 1–6.
- 吉郷英範・市川真幸・中村慎吾. 2005. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 IV. *比和町立自然科学博物館標本資料報告*, 5: 1–51, pl. 1.
- 吉郷英範・内藤順一・中村慎吾. 2001. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録. *比和町立自然科学博物館標本資料報告*, 2: 119–168.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2003. 比和町立自然科学博物館魚類収蔵標本目録 (III). *比和町立自然科学博物館標本資料報告*, 4: 31–75, pl. 1.
- 吉郷英範・中村慎吾. 2008. 庄原市立比和自然科学博物館魚類収蔵標本総目録. *庄原市立比和自然科学博物館標本資料報告*, 8: 1–112, pl. 1.